

第3回玉城町かわまちづくり協議会資料

たまきかわまちづくり計画について

＝全体コンセプト(案)＝

令和5年3月1日

玉城町かわまちづくり計画

令和5年3月

目 次 (案)

市町村及び河川の概要.....

1. 市町村等の概要.....

2. 市内の河川の概要.....

水辺とまちづくりに関する基本方針.....

1. 関連計画における河川の位置づけ.....

2. 基本方針.....

①現状・課題.....

②かわまちづくりの目指す姿.....

③基本方針.....

④計画対象範囲.....

⑥既往かわまちづくり計画とのつながり.....

⑦事業スケジュール.....

ソフト施策の個別施策計画書.....

1. 河川名.....

2. 施策の実施範囲.....

3. 施策概要.....

支援整備内容の概要（ハード施策）.....

1. 河川名.....

2. 整備範囲.....

3. 整備内容.....

ハード施策の個別整備計画書.....

1. 整備内容名.....

2. 整備概要.....

3. 整備の必要性、有効性.....

4. 整備の実現方策.....

5. 推進体制.....

6. 有効利用および維持管理.....

7. 特徴.....

その他特筆すべき事項.....

1. 玉城町かわまちづくり協議会.....

2. たまきかわまちワークショップ.....

3. ニーズ把握調査.....

4. 社会実験.....

1.市町村及び河川の概要

■玉城町の概要

- 玉城町は、三重県の中部に位置し、市の南東部で伊勢市との境界に宮川が流れる。
- 古来より伊勢参宮の宿場町、世界遺産熊野古道の街道起点をなす要衝として栄え、現在はJR参宮線や伊勢自動車道が通っている。
- 人口:1.5万人(R4.8末時点) ・面積:40.91km²



出典:玉城町都市計画
マスタープラン

■まちの基盤

- 古くから伊勢神宮への参宮客が集まる交通の要衝で、北畠親房と北畠顕信によって築かれたとされる田丸城がある宿場町として栄えてきた。
- 周辺にはアスパア玉城、玉城ふれあい農園といった観光スポットが存在している。



田丸城跡



アスパア玉城



玉城ふれあい農園

玉城町 おすすめスポット

玉城町の新たな魅力スポット「水辺の楽校」。
でも玉城町には、ほかにも行きたいところ、知りたいところがいっぱいあります。
現地へ足を運び、玉城らしさを知り、感じ、楽しみましょう。

水辺の楽校 NEW

玉城町の新しいお楽しみスポット。子どもたちが安全に水遊びを楽しみながら、水や自然や生き物について学ぶことができます。河川敷でのスポーツやバーベキューの利用も考えられています。



百間バネ

宮川の強い水の流れをはね除けるための石積み堤「百間バネ」は宮川の洪水から尊い命を守るという願いを込めて明治の時代に築かれました。地域の防災の知恵が水辺の楽校の西端に残っています。

いろいろな生き物たちにあえるかも。

せせらぎ水路の付近ではヤゴの仲間やメダカや野鳥など、いろいろな生き物が生息しています。



2017三重県共有デジタル地図(写真地図データ)

アスピア玉城

緑に囲まれた自然いっぱいのアスピア玉城。メイン施設「玉城ふれあいの館」「ふるさと味工房アグリ」のほかに、マウンテンバイクコース、子供広場などがあります。

玉城ふれあいの館 (玉城弘法温泉)

ふれあいの館には玉城弘法温泉があります。緑に囲まれた静かな環境と、おだやかな泉質でリラックスさせてくれます。地元の人々に人気の温泉です。



ふるさと味工房アグリ

作り手の顔が見える安心で新鮮な農作物がたっぷり。「玉城豚」の精肉や加工品、手づくりパンなどもあります。またパンやソーセージづくり体験教室、農業体験教室、バーベキューなども楽しめる施設です。



玉城豚

村山龍平記念館

村山龍平は、紀州藩田丸領に仕えた旧士族。明治維新後、大阪に移住し、朝日新聞を創刊しました。その後、朝日新聞を一流の新聞に育てるとともに社会事業や文化事業にも力を尽くしました。記念館は、その偉業や遺品を数多く紹介。郷土資料館として玉城町の歴史も紹介しています。



田丸城跡 (続日本100名城 84)

野面積みと呼ばれる石垣を残す田丸城。南北朝時代に北畠親房が、南朝の拠点として築いたのが始まりで、700年近い歴史を経ています。戦国時代には織田信長の次男、信雄が天守を築いて居城としました。



村山龍平歌碑

玄甲舎

江戸時代の田丸城主の家老で、優れた茶人でもあった金森得水の別邸。茶室と客室を兼ねた建物と、家族が生活する居宅で構成された数寄屋造りが特徴です。京都から一流の職人を呼び復元させた町指定の文化財。



朽羅神社

皇大神宮摂社にあたる朽羅神社は田や野原の農耕の神様を祀る神社で、田んぼの中にたたずむ大きな森の中にあります。米の収穫期には黄金色の稲穂と森のコントラストが美しい姿を見せます。



田丸神社

学問の神様とされる菅原道真をはじめ20柱の神様をまつる神社です。古くはご神木に雨などを祈願する農耕神だったといわれています。現在は学業成就や厄除けなどで多くの参拝客が訪れます。



玉城ふれあい農園

約30棟のいちごハウスが広がる観光農園。低農薬栽培にこだわった栽培で知られています。いちご狩りの人気スポットです。



約山公園

周辺のまち並みを一望できる山頂公園です。標高269mの小高い山で、初心者でも気軽に歩けるハイキングコースもあります。公園までの遊歩道は、季節ごとの彩りを見せ、美しい自然を感じながら歩くことができます。

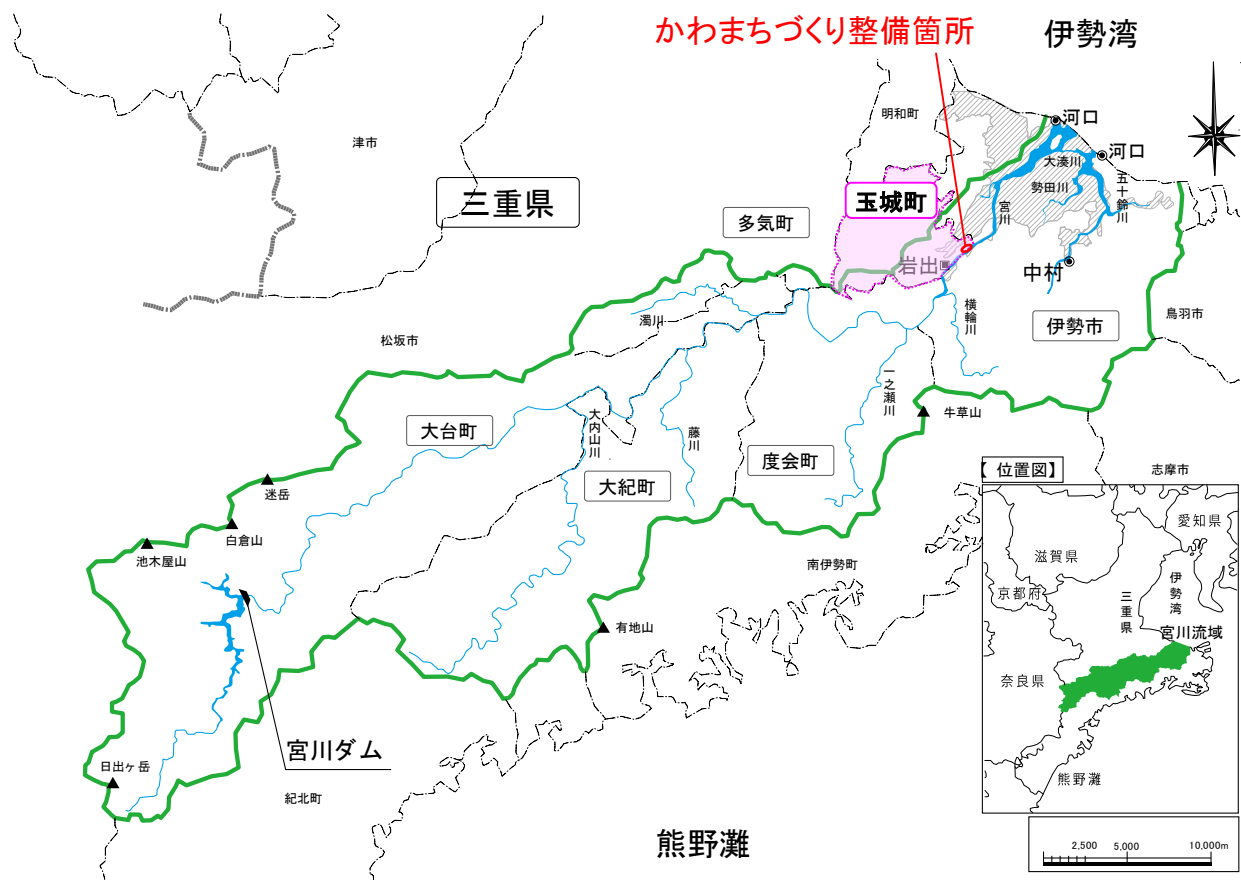


山頂からの眺望▶

1.市町村及び河川の概要

■主な河川

- 玉城町と伊勢市の境界にあたる南東端を宮川が流れている。
- 宮川は全国有数の清流として知られ、何度も清流日本一となっている。
- 広い高水敷には河川公園や各種スポーツ広場、あるいは採草地等として利用されている。特に、桜の名勝である宮川堤は、広大な公園として整備され、伊勢神宮に関わる伝統的な行事の陸曳の起点となっている。また、玉城町内の河川敷には「たまき水辺の楽校」がR1に開園した。



一級河川宮川水系
延長96km
流域面積920km²

1.市町村及び河川の概要

■河川利用状況

- 玉城町昼田地区の河川敷に、水辺の楽校を整備し令和元年5月に開校した。
- 水遊びができるせせらぎ水路やキャンプやイベント等ができる広い高水敷の広場が整備され、水遊びや散策・キャンプ等を中心に休日にはのべ200人を超える利用がされている。
- 星空観察会やデイキャンプと音楽の融合イベントなどが地元主導の取り組みで行われている。

水辺の憩いの場としての利用



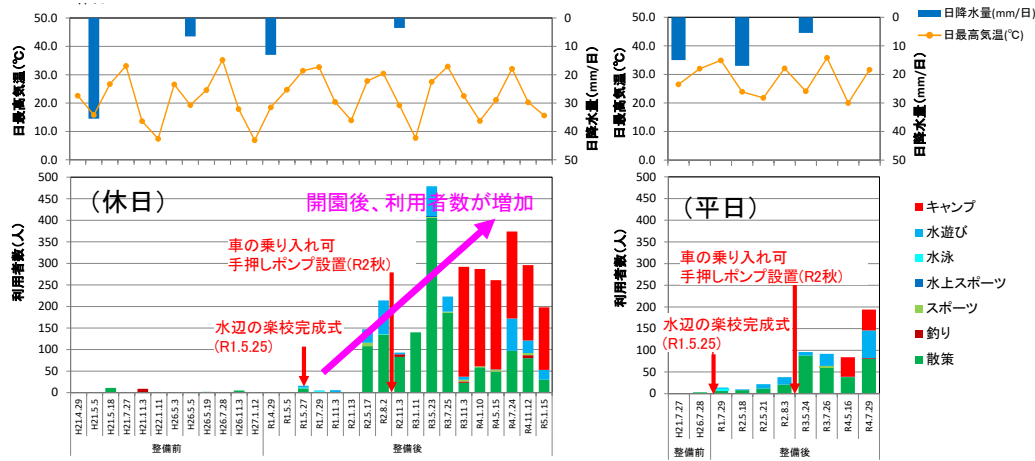
高水敷の利用(オートキャンプ)
(R3.5.23)



せせらぎ水路の利用
(R3.5.23)



園路の利用(自転車利用)
(R3.5.23)



利用者数の推移(上段:調査時の気象条件(気温、降水量)、下段:利用者数)
※キャンプはR3.7までは散策に含む

イベントの場としての利用



天体観測(玉城町教育委員会主催)(R2.8.22)



デイキャンプエリア



オートテラスステージ



出店ブース

ミナテラスキャンプ(R4.11.5)



水生生物調査の実施
(R元.6.12:玉城町立下外城田小学校)

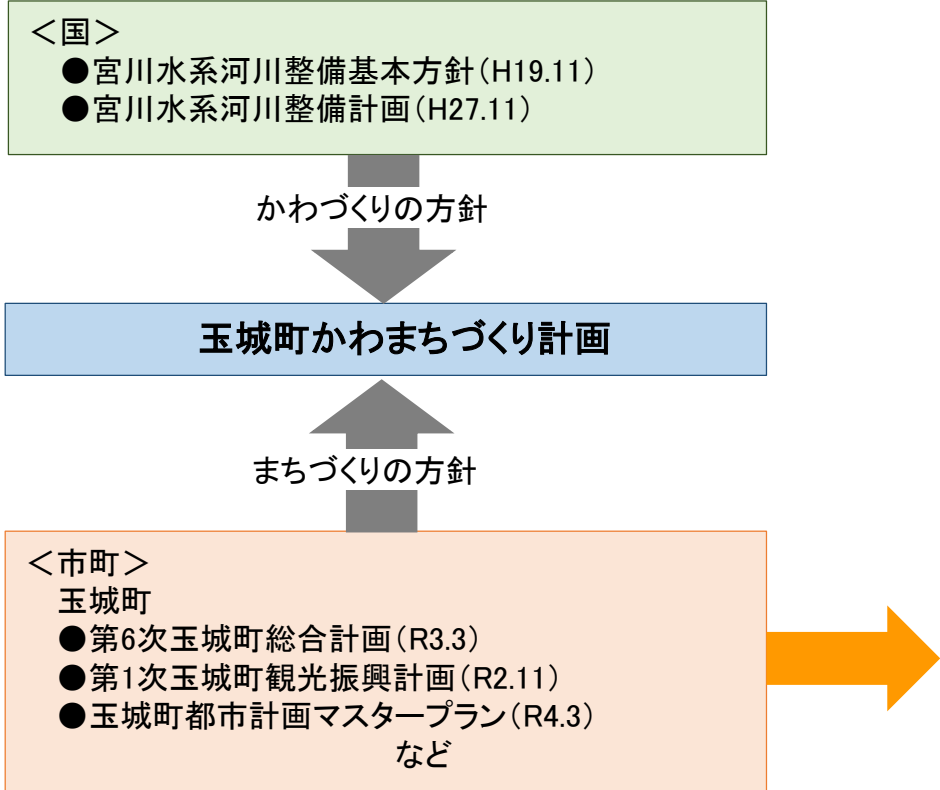


クリーン大作戦(R2.10.25)

2.水辺とまちづくりに関する基本方針

■関連計画における河川の位置づけ

- 宮川水系河川整備計画(H27.11)では、人と河川との豊かなふれあいの場の整備として、「地域住民との連携や宮川の上下流との交流を創出する場となる水辺の整備・利活用計画による、良好なまちと水辺が融合した空間形成の円滑な推進を図る」こととしている。
- 第6次玉城町総合計画(R3.3)、玉城町都市計画マスタープラン(R4.3)、第一次玉城町観光振興計画(R2.11)等の玉城町の各種計画において、既存施設を活用した地域活性化を目指しており、たまき水辺の楽校をさらに充実していくことが位置付けられている。



- 関連計画での位置づけ
- ★「第6次玉城町総合計画(R3.3)」におけるまちづくりの目標
- ・人と文化が育ち、愛着が感じられるまち
 - ・まちの活力を高め、持続的に発展できるまち
- ◎観光入れ込み客数の目標:2030年に300,000人
- ★第1次玉城町観光振興計画(R2.11)
- ・計画の目標 観光レクリエーション入れ込み客数
2025年に280,000人(2019年 265,901人)
 - ・新たな観光資源の発掘と魅力向上
水辺の楽校の活用に努めていく
- ★玉城町都市計画マスタープラン(R4.3)
- ・水辺の楽校 水と緑の拠点として、自然融合型の公園・緑地を整備

2.水辺とまちづくりに関する基本方針

■玉城町の強み、課題

●玉城町の強み

- ◇伊勢参宮の宿場町、熊野古道の街道起点や田丸城跡を中心とした[歴史文化に溢れる町](#)
- ◇宮川の清流を活用した[水辺の楽校でのキャンプ利用](#)
- ◇「玉城豚」や柿、いちご、米といった[特産品の存在](#)
- ◇アスパ玉城、玉城ふれあい農園といった[観光スポットの存在](#)

●玉城町の課題と目標

(課題)

<観光入れ込み客数の減少>

- ・魅力のある地域資源があるものの、H26をピークに観光入れ込み客数が減少傾向である。

<地域資源の活用による更なる賑わいの創出>

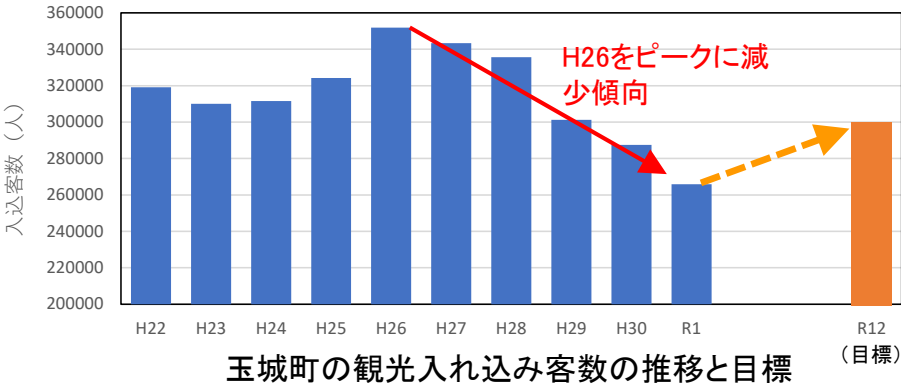
- ・魅力ある資源を十分に生かしきれていないことから、地域資源を活用した観光・交流機能の強化が必要である。

<持続可能なまちづくり>

- ・人口減少が進行していることから、まちの活力を高め、持続的に発展できるまちづくりが必要である。

(目標)

- ・地域資源を活用し、観光入れ込み客数の拡大を目指す。
- ・計画の目標 観光レクリエーション入れ込み客数
2030(R12)年に300,000人(第6次総合計画)



2.水辺とまちづくりに関する基本方針

■かわまちづくりにより目指す姿(案)

●かわまちづくりにより目指す未来の姿(案)

『清流宮川と玉城町の「自然」「歴史」「にぎわい」の交流拠点の創出

～清流宮川から「にぎわい」を街中へ～』

- ・新たな観光資源としての魅力アップによる観光交流人口の拡大
- ・様々な活用メニューを通じた世代間交流と活力向上による町への愛着の拡大(定住人口の維持)



2.水辺とまちづくりに関する基本方針

■基本方針(案)

基本方針 1	宮川の持つ魅力を活かしたかわづくり
宮川で整備されている水辺の楽校や高水敷空間の利用施設を活かすとともに、豊かな自然環境や景観を保全し、多様な生き物との共生が図られるよう、これらの利用と自然環境が融合した河川空間づくりを推進する。	
基本方針 2	歴史資源や既存施設を活かしたかわとまちの回遊性の向上
玉城町内に分布する歴史資源や宮川河川敷内の既存施設をつなぐことで、河川空間とまちが一体となるような回遊性の向上を推進する。	
基本方針 3	宮川の新たな魅力の発信
宮川の特性を活かした新たなイベントの展開、SNSを活用した情報発信等、宮川の沿川市町が一体となった新たな魅力の発信を推進する。	

■計画対象範囲

- かわまち計画の対象範囲は、たまき水辺の楽校(玉城町昼田地区)」周辺を対象とする。
- ソフト施策は、まちとの回遊性も踏まえ、玉城町全域で実施する施策も含む。



3. かわまちづくりの当面のハード整備

■ 第1回、第2回WSで出た意見を踏まえた整備内容(案)

- ・バス停の待合スペースと歩道の確保
- ・駐車スペースの確保
- ・きれいなトイレの整備
- ・水洗い場の整備
- ・着替えスペースの確保
- ・ヘリポートの整備

➡ 盛り土によるスペースの確保

- ・バス停の待合スペースと歩道の確保
- ・道路からのアクセスの改善

➡ 横断歩道の整備

- ・川の生き物の自然観察
- ・昆虫採集
- ・「カワガキ」の復活
- ・釣り整備

➡ ワンド周辺の整備
(森の遊び場)

- ・カヌーなどの川遊び
- ・笹舟
- ・写真映えするスポットづくり
- ・ヨーヨー釣り
- ・釣り整備

➡ 船着き場の整備

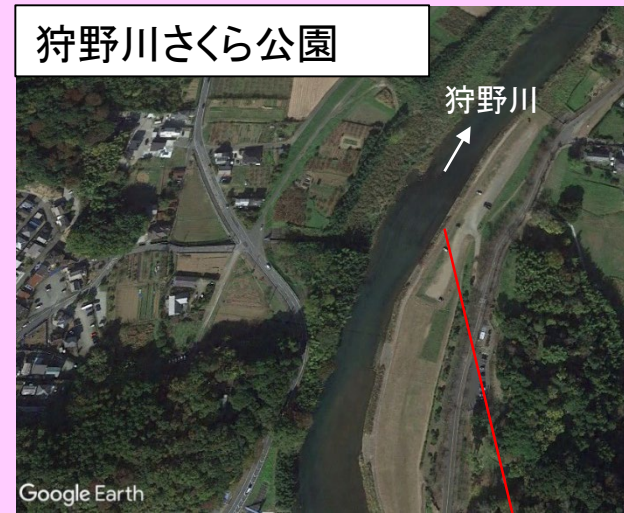
3. かわまちづくりの当面のハード整備

■ 整備イメージ(他河川事例)

狩野川函南かわまちづくり



狩野川さくら公園



桑名市住吉地区

